

プロジェクト課題活動実績

課題名：加工事業の立ち上げと地域の人材活用による法人経営の発展

下関農林事務所農業部 チーム員：垣内、松本、池田、高尾、光永

<活動事例の要旨>

「みんなで守ろう久野の農地、元気で安心して暮らせる地域をつくろう」を経営理念とした農事組合法人久野ファームでは、平成23年に第1期中期経営計画を策定し、その戦略プランの実現に向け経営されていた。その戦略プランの実践項目のひとつである、女性の技術の活用のための農産加工事業の開始の実現に向け、加工事業が円滑に開始できるよう様々な支援を行うことで、加工所運営のノウハウ等が理解され、加工事業が開始された。また、運営体制の整備支援により、第2期中期経営計画にも加工事業が盛り込まれ法人内での位置づけが強化され、地域の元気創出の起爆剤としての活動が期待される。

1 普及活動の課題・目標

(農)久野ファームは平成18年7月、5集落から67戸が参加して設立され、米、小麦、大豆、野菜等の生産活動に取り組んでいる。平成23年には、5年先の目標を設定した中期経営計画(期間：平成24～28年)を作成し、その計画に基づき、品目の生産拡大や女性の組合員化等の取組みを進めてきた。

中でも女性の参画については、平成26年に女性31名が新たに組合員として加入し、翌27年に女性部が設立された。女性部は環境部会、加工部会、イベント部会で編成され、ユズ・こんにゃく芋の栽培、加工、地域イベントへの参加等幅広く活動している。

女性部では毎月1回全体集会を開き、部員同士の交流を図るとともに、各種研修や話し合いを行い、法人活動における女性の技術活用と役割発揮の一つとして加工事業に取り組むこととなった。

組合員の高齢化の進行、加工部門の新設等、将来に向けた人材の確保が必要であることから、地区内外在住の後継者世代へアンケートを実施し、法人活動への意向を把握した。少数ながら法人活動への参加意向があり、このような人材が参加しやすいしくみづくりが必要である。

こうした中、地域の担い手として農地の集積拡大や加工部門新設等を背景に一層の生産安定を図るとともに、地域の幅広い人材の活用と参画を促進し、経営の複合化・多角化を重点とした着実な経営発展を支援することで、下関地域における6次産業化のモデル法人を育成する。

2 普及活動の内容

(1) 加工事業の円滑な開始に向けた支援(対象：(農)久野ファーム女性部)

ア 加工事業開始に向けた各種手続き支援

各種申請時に必要な試算表の作成支援、加工機器導入に関わる情報収集・提供を行った。

イ 加工事業のイメージ化

販売経験の少ない女性部員に加工事業の展開をイメージできるよう、加工所の稼働回数や女性部員の出役回数から5年間のステップアップ計画を作成した。法人の

経営改善計画に基づく売上金額に到達するためには、どのくらいの加工量、労働力が必要かを考えることで、具体的な加工所運営のイメージが明確になった。

ウ 売り方の提案

直売所への卸売り販売だけでなく、温泉旅館、飲食店、女性起業グループ等業者仕向け用の販売を提案。作ることより売ることに対して不安を感じていた女性部員に対して、販売先及び方法の具体例を挙げることで、不安の解消と意欲向上につながった。

また、商品づくりを進める中で販売価格の考え方を研修し、原価計算による適正価格の考え方が身に付いてきた。

エ 加工技術の向上と商品開発

誰もが同じレベルの商品を作れるよう、女性部員の研修として、加工実習や同じ加工品をつくる他の起業グループへの視察研修を実施し、起業に向け加工技術の向上を図った。

また、各商品の作り方、包装方法等をまとめたレシピカード作成を提案し、商品規格を明確にするよう記録を進めている。

オ 商品ラベル等の作成

商品の顔となるラベル、ロゴマークのデザイン及び品質表示の作成支援を行った。品質表示については、食品表示講習会等への参加を呼びかけ、食品表示責任者の資格取得にもつながった。

カ こんにゃく芋の栽培・管理指導

女性部環境部会が担っているこんにゃく芋の栽培について栽培・管理指導を行った。日焼けや病気の発生時にはそれぞれの対策を、また、適期収穫を指導し1年目の加工に必要な芋の収穫につながった。収穫した芋は仕分け管理を行い、種芋も一部確保もできた。

キ 女性部全体集会の開催

毎月1回（第3水曜日）行われる全体集会の場を活用して、加工事業開始に向けた情報提供、研修、協議等を行った。開催前には女性部長、役員等と内容について打合せし、当日の進行がスムーズに進むよう事前準備を心がけた。

参加者は6～7名に固定化されつつあったが、加工に携わる部員が精査され、より具体的な話合いが進んだ。

(2) 運営体制の整備支援（対象：（農）久野ファーム）

ア 運営ルールづくり

労賃や材料費等を管理する法人の会計担当との加工所の役割分担が進むよう、作業日報等、各種記録用様式を作成した。

法人内での加工所の位置づけを検討したが、女性部だけでなく誰でも参加できる加工事業としての位置づけをさらに考えていく必要がある。

イ 新中期経営計画の作成

前回（H23年度作成）同様BSCの手法を使って新中期経営計画作成を支援した。2期目となる計画作成は他に事例がなく手探りの部分はあったが、1期目の計画の達成度合



いを確認することから始め、分析、優先順位づけ、検討へと進めた。

次の5年は加工事業が始まることもあり、より多くの女性部員が計画づくりに参加できるよう、全体集会に合わせて日程調整する等工夫した。

検討会の実施状況

回	日にち	内容	参加者
①	11月16日	策定手順の説明	男性6名、女性10名
②	12月21日	第1期戦略プランの達成度合いの検証 事業理念の再確認 SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威の抽出）	男性9名、女性10名
③	1月10日	SWOTクロス分析（アイデア出し）	男性9名、女性12名
④	1月18日	戦略要因（アイデア）の順位づけ	男性10名、女性11名
⑤	2月1日	品目別売上目標の検討 戦略プランの検討、作成	男性7名、女性3名
⑥	2月10日	戦略マップの検討、作成	男性7名、女性3名
⑦	2月19日	通常総会での報告、検討	組合員40名

※上記検討会以外に必要なに応じて、役員等との打合せを適宜行った。

エ 情報発信によるPR

広報紙「くのちゃんだより」の作成を支援し、イベント及び久野地区内全戸に配布した。地域内外へのPRになり、販売につながった。



だよ
くのちゃん便り

第1号
2016年11月6日
発行：農事組合法人
久野ファーム女性部

農事組合法人久野ファームに女性部を設立してから1年経過しました！「加工事業をとおして地域を元気に」を合言葉に無我夢中で奮闘しています。このたび、私たちの活動情報紙「くのちゃん便り」を発信することになりました。このくのちゃん便りが地域活性化につながれば嬉しいです。

「くのちゃん」。ネーミングかわいいでしょう？消費者の方、子どもからお年寄りまで「親しみやすい」「覚えやすい」名前を！ということ、部員の考案で名付けました。誇りを持って久野を盛り上げていきます！！

11月に加工所完成です！ *

久野公民館から道ななめ向かいの建物に農産物加工所「食工房くのちゃん」です。

この真新しい施設で仲間と思いをひとつにして、加工事業をとおして地域を元気にする新しい展望を目指します。まずは平成29年からの稼働を目指して、施設で加工品の試作に取り組みます。

加工品目は素材の味を活かし、安心・安全をモットーに決定していきます。まずは「こんにゃく」から始めて、お餅、漬物、豆腐、お弁当など、徐々に品目を増やして商品化することを考えています。

気軽に立ち寄れる加工所にしたいです。



「食工房くのちゃん」の外観です。

商品第1号は「芋100%こんにゃく」♪

女性部が主となって、こんにゃくの加工だけでなくこんにゃく芋の栽培もしています。10月に、2回に分けて収穫しました。最高の芋をゲットです。毎年11月第1日曜日にある久野ふれあいバザーでもたくさんの方に大好評いただいておりますこの商品も、1年を通してご提供していけるようにがんばります！



「こんな芋もとれた！」




こんにゃくの原料もきたりー（くさいのよー）


裏面も見てね！

女性部の全体集会もやっています！

女性部全体集会は、毎月第3水曜日午後7時から開催しています。この会を軸に、加工事業を展開していくポイントなどを話し合ったりしています。また、商品開発につながる手づくりのお菓子やお漬物を持ち寄りもして研鑽を積んでいます。



「成果を発表する松尾女性部員が先ほどもーす」



加工部門に経営の新たな視点を取り入れるため、外部の専門家の養成講習会にも参加しました。専門過ぎてホントに苦戦しましたが、それを活かしてできることから始めていきます。


お正月用のお餅を予約販売します！

食工房くのちゃんでは、商品第2号として久野産のもち米をつかったお正月用のお餅を予約販売します。かさね餅と小餅の組み合わせで、3種類を用意しています。必要なお餅の数で組み合わせてご注文ください。

- ★Aセット 1,800円（もち米1升分）
内容：かさね餅(1組)＋小餅 20個
- ★Bセット 900円（もち米半升分）
内容：かさね餅(1組)
- ★Cセット 1,800円（もち米1升分）
内容：小餅 40個

★注文・お問い合わせ先★
TEL：(083)287-0977
(松尾)

商品ロゴマークを決定しました！



食工房くのちゃんでの商品のシンボルとなるマークです。このマークのある商品を見かけたらぜひ買ってください♪

みんなのこころのゆかにすむ
あのやさしいころの「げんき」があふれて「くのちゃん」になりました

ちいさなみんなに
にこにこのやさしいげんきを
とどけます

=あとがき=

「くのちゃん便り」第1号おつきあいいただきありがとうございます。さまざまな課題がありますが、地域に明るいまえを見続けられるように活動がんばります。今後ともよろしくおねがいしますね！

3 普及活動の成果

(1) 加工事業の開始

ア こんにゃく、もち、漬物の販売開始

1 1月に加工所が建築され、1 2月から稼働、年末から予約注文による販売を開始した。正月用もちを加工する時期だったこともあり、こんにゃくともちの2品目で販売が始められた。

その後、こんにゃくの商品開発（内容、包装形態、ラベル、品質表示、原価計算方法等）のノウハウを活かして漬物の販売も始めることができた。

豆腐は販売に向けて試作を重ねている。

弁当は、2月の法人総会でお披露目し、加工事業、女性部活動のPRにもなった。併せて、弁当内容についてアンケートも実施した。組合員には好評で、アンケート結果は次のメニュー開発へつなぐこととしている。

イ 販売

女性部員自らが交渉し、小日本ふるさと市と道の駅きくがわでの販売を開始した。食べ方を紹介したポップの掲示や売上状況を見ながらの販売数の調整等、販売にも積極的に取り組むようになった。

ウ こんにゃく芋の生産

地元で生産された芋を原料とするため、女性部で栽培を実施。日焼けや病気の発生等、適地とは言えない場所での栽培に苦労は多かったが、適宜、栽培管理指導を行い、1年目に必要な加工原料となる芋を確保することができた。

(2) 新中期経営計画の策定（期間；平成29年～33年）

2期目となる中期経営計画を作成できた。女性部全体集会と同日に行う等日程調整し、多くの女性部員が計画作成に関わることができた。

通常総会では組合員への説明を行い、法人の新たな5ヵ年計画として位置づけられることになった。（戦略プラン、戦略マップ参照）

4 今後の普及活動に向けて

(1) 計画的な加工・販売の実施

販売を開始したこんにゃく、もち、漬物の安定的な加工・販売と、営業許可を取得している弁当、菓子類（あんもち等）の商品開発、販売が進められるよう、各加工品と加工所全体の加工計画を作成し、計画的な加工事業の展開と加工所の有効利用を目指す。

(2) 人材の確保と活用

今後、加工品目の拡大を進めていくには、加工従事者となる人材の確保が必要となるため、引き続き女性部員への参加誘導を進める。

また、法人の後継者育成も必要なことから、後継者世代への法人活動の情報発信も支援していく。

(3) 中期経営計画の実践

最優先事項である加工所の早期経営安定につながるよう、加工に関わる項目を中心に実践活動を支援する。